

【リライト前】MK プロジェクト 1 年目の振り返り（AI 活用編）

MK プロジェクトとは、当ホームページの運営及び AI を活用した副業を指しています
ここでは当プロジェクトの運営にとって切っても切れない存在である AI について、2026 年 7 月時点における実感・感想を記したものです

AI を 1 年間、本気で使って分かったこと

MK プロジェクトを始めて約 1 年。この 1 年間で得られた成果の一つが「AI 活用」である。
ChatGPT や Gemini を、仕事・ブログ・ホームページ制作・シミュレーションソフト開発・翻訳など幅広い用途で使い続けてきた。一般的なユーザーよりもかなり長い時間、深いレベルで AI と付き合ってきたと思う。

結論から言えば、AI は間違いなく便利である。

しかし、それ以上に大きかった成果は、「AI との付き合い方」を学べたことだった。

AI とは何者だったのか

この 1 年間を一言で表現するなら、

「(特定の) 作業がやたら速い、イエスマンの部下」

である。

AI は非常に優秀である。

しかし、優秀だからこそ危険でもある。

自信満々に回答するため、あたかも正解を知っているかのように見える。

こちらが期待している方向へ話を合わせてくることも多く、「それは違う」と真正面から止めてくれる存在ではない。

だからこそ、AI を使う側に最も求められる能力は、

「AI を疑う姿勢」

ではないかと考えている。

AI は信用してはいけない

私は現在、

AI の回答は、半分以上が間違っているぐらいの意識で接する方が健全

だと思っている。

もちろん実際の正答率が半分という意味ではない。

重要なのは心構えである。

ChatGPT の画面下には、

「ChatGPT の回答は必ずしも正しいとは限りません。重要な情報は確認するようにしてください。」

と表示されている。

しかし、多くのユーザーは数日も使えばこの注意書きを意識しなくなるのではなからうか。

「たいてい合っているだろう。」

その油断が最も危険である。

税務・法律・会計のように、一つの誤りが大きな損害につながる世界では、

「AI は基本的に疑うもの」

という姿勢の方が、結果的には安全である。

AI に求めてはいけないもの

この1年間を通して、AI に求めてはいけないものも見えてきた。

- 正確性
- 意見
- 過度な期待
- 信用・信頼
- 将来予測

特に「意見」は危険だと思う。

私は当初、AI を「軍師」と呼んでいた。

困ったときに相談し、進むべき方向を教えてくれる存在。

そのような位置付けで接していた。

今振り返れば、この呼び方自体が間違っていた。

「軍師」という言葉は、無意識のうちに AI への精神的依存を生み出していたように思う。

現在は半年以上、そのような呼び方はしていない。

ChatGPT は ChatGPT。

Gemini は Gemini。

単なるツールの名称で呼ぶようにしている。

その方が精神的に健全である。

AI に頼ってはいけない場面もある

最も反省している出来事は、息子の中学受験終盤である。

親として焦りや不安が大きくなり、AI へ判断を求め始めた。

その結果、危うく様々なものを崩壊させるところだった。

詳細はここでは書かないが、

困っているときほど AI へ頼ってはいけない。

これは非常に大きな教訓となった。

人は精神的に弱っているときほど、「誰かが答えを持っている」と思いたくなる。

AI はその役を演じることができてしまう。

しかし、それは答えではない。

AI は仕事を代わってくれなかった

AI を使えば仕事が楽になる。

私も最初はそう思っていた。

実際には違った。

税務

税法や税務相談では、信頼性は著しく低い。
最終的には自分で法令や通達を確認することになる。
楽しようと思ったが、全くできなかった。

JDL・e-Tax

税務ソフトのマニュアルを大量に読み込ませれば、操作案内ぐらい簡単だろう。
そう思っていた。
結果は惨敗だった。
AI は途中で迷宮へ入り込み、最後は「分からない」とギブアップした。
私は引き返せなくなり、本当に困った。
「大量資料の要約・ガイドは AI の得意分野」
という先入観があっただけに、この失敗は大きかった。

WordPress

一方で、WordPress 作業は非常に助けられた。
しかし、それは
ガイド
↓
実行
↓
失敗
↓
別案
↓
実行
↓
成功
という試行錯誤を何度も繰り返した結果である。
AI が一発で解決したわけではない。

執筆

執筆補助も非常に優秀だった。
しかし、
壁打ち
↓

修正

↓

壁打ち

↓

修正

↓

壁打ち

という繰り返しがあって初めて価値が出る。

AI へ丸投げすると、

内容を勝手に盛る。

AI らしい薄っぺらい文章になる。

論点がずれる。

ろくなことにならなかった。

翻訳

日本語から中国語への翻訳も数多く行った。

しかし、一発で満足できたことは一度もない。

必ず修正している。

英語・中国語以外となると、私は怖くて使えない。

シミュレーションソフト開発

退職金シミュレーターも印象深い。

最初は Gemini で挑戦し、大失敗。

その後 ChatGPT へ移り、何十回もの試行錯誤を繰り返して完成させた。

完成品だけを見れば AI が作ったように見える。

しかし実際には、

AI と人間が何度も修正を繰り返した結果である。

AI が得意なのは「試行錯誤の 1 サイクルを速くすること」

この 1 年間で最も実感した AI の特徴は、

試行錯誤の 1 サイクルを速くすること

である。

答えを出してくれるわけではない。

失敗しなくなるわけでもない。

トライ & エラーが不要になるわけでもない。

しかし、

一回転は確実に速くなる。

これが AI 最大の価値だった。

AI 時代に必要なスキル

この 1 年間を通じて思うのは、
AI 時代に求められる能力とは、
プロンプトを書く技術でも、
便利な使い方を知ることでもない。

AI に担当させる作業と、自分自身が担当する作業を適切に切り分けられること。

これこそが、本当に重要なスキルではないかと思う。
責任を負うのは最後まで人間である。
だから、人間が考えるべき仕事まで AI へ渡してはいけない。

最後に

ここまで様々なことを書いた。
しかし冷静に考えると、多くは世間でもよく言われている話である。
違うのは、

それを自分自身の失敗として経験できたこと

だと思う。
AI は確実に進歩している。
最近ではアイキャッチ画像など、日本語を含めても驚くほど高品質なものを短時間で生成できるようになった。
進歩している領域は間違いなく存在する。
一方で、「意見を求める相手」としての進歩は、私にはあまり感じられない。
むしろ、こちらの考えに合わせる能力、つまり「太鼓持ち」としての性能が上がっているように感じることもすらある。
もちろん、これは私個人の感想である。
それでも、この 1 年間を振り返って一つだけ確信を持って言えることがある。
AI を使えるようになったことよりも、AI に何を期待し、何を期待してはいけないか、その境界線を自分なりに持てるようになったこと。
それこそが、MK プロジェクト 1 年目における AI 活用最大の成果だったと思っている。